



---

# **焼却炉（ダイオキシン対策型） CI150GA**

## **取扱説明書**

**（バーナーは別冊）**

このたびは、本製品をお買い上げいただきありがとうございます。  
ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みいただき、使用上の注意事項、  
本機的能力、使用方法など十分ご理解のうえで、正しく安全にご使用くださるよう  
お願いいたします。また、この取扱説明書は大切にお手元に保管してください。



## はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品を末永くご愛用いただけますよう、この取扱説明書を熟読の上ご使用くださいますようお願いいたします。また、取扱説明書は大切にお手元に保管してください。

なお、バーナーにつきましては、別冊のバーナー取扱説明書をお読みください。

また、製品の向上には絶えず努力を傾けております。従いまして製品改良のため、仕様など予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

## 目 次

|                            |     |
|----------------------------|-----|
| はじめに-----                  | 1   |
| 1. 安全にお使いいただくために -----     | 2   |
| 2. 仕様 -----                | 4   |
| 3. 外形寸法及び各部の名称 -----       | 5   |
| 4. 設置方法と組立方法 -----         | 6   |
| 1) 準備 -----                | 6   |
| 2) 設置方法 -----              | 7   |
| 3) 組立方法 -----              | 8、9 |
| 5. 運転方法 -----              | 10  |
| 1) 燃料タンクに白灯油を入れる -----     | 10  |
| 2) 着火手順 -----              | 10  |
| 3) 燃焼温度の確認 -----           | 18  |
| 4) 消火手順 -----              | 19  |
| 6. 保守・点検 -----             | 20  |
| 7. 故障かなと思ったら 現象とその対応 ----- | 21  |

## 1. 安全にお使いいただくために

安全に効率よくご使用いただくために、ご使用前に本取扱説明書の安全に関する注意事項をよくお読みください。  
使用上の注意事項、本機的能力、使用方法など十分ご理解の上で、正しく安全にご使用くださいますようお願いいたします。

安全に関する表示について（安全に関する注意事項）  
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。  
これらは安全上、特に重要な項目です。  
必ずお読みいただき指示に従って正しく使用してください。



**危険** 指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの。



**警告** 指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの。



**注意** 指示に従わないと、傷害を受ける可能性のあるもの。

基本的注意事項      安全のためにこれらの注意事項を守ってください。



### 警 告

過労・飲酒時の作業禁止

- ・過労や睡眠不足で体調が悪いときや、飲酒時・薬服用時の作業は、注意力が散漫になり、事故につながります。
- ・体調が悪いときや、飲酒・薬物飲用時の作業は行わないでください。

きちんとした服装・保護具の着用

- ・だぶだぶの服・装飾品など機械部品に引っかかる可能性のあるものまた、油などの付着した作業着は引火しやすいので着用しないでください。

改造はしないでください。改造は、安全上問題になることがあります。

- ・改造に起因する、人身事故や故障については責任を負いかねます。

## 危 険

### 危険物の焼却炉への投入禁止

- ・ 引火性の高い物…ガソリン、シンナー、ベンゼン、エチルアルコール、可燃性粉塵など。
- ・ 爆発が起こる可能性がある物…スプレー缶、火薬、密閉された缶など。
- ・ 毒物…水銀、ヒ素、黄リンなど。
- ・ 劇物…クレゾール、トルエン、硝酸など。
- ・ 上記以外にも危険性のある物。

## 警 告

本機の故障や近隣の方々に御迷惑をおかけすることを避けるために、下記の使用方法を必ずお守りください。

- ・ 絶対に投入口、灰出し扉を開けた状態で焼却しないでください。
- ・ 絶対に塩素系化合物は、焼却しないでください。
- ・ 1時間あたりの焼却能力以上は、焼却物を投入しないでください。
- ・ プラスチック類は焼却しないでください。

## 注 意

- ・ 焼却中は、二次燃焼バーナー及び燃焼スイッチ及びブロウスイッチを必ず『ON』の状態で使用してください。  
(バーナー部の故障原因となります。)
- ・ 使用前に燃料タンクの残量を確認し、不足している場合は適正な量を補給してください。  
燃料タンクは出来るだけ満タンにしてください。  
(燃料切れが起きるとポンプの破損の原因となります。)
- ・ 使用状況により、耐火セメント表面の薄皮がはがれた様になることがありますが、異常ではありませんのでそのままご使用ください。
- ・ 煙突傘の金網が目詰まりしているとき、使用直後は熱くなっているため、常温まで冷ました状態で金網を掃除又は交換してください。
- ・ 使用状況により煙突及び、二次燃焼室の表面アルミが高温により溶ける事が有りますが性能には影響は有りませんので御安心ください。

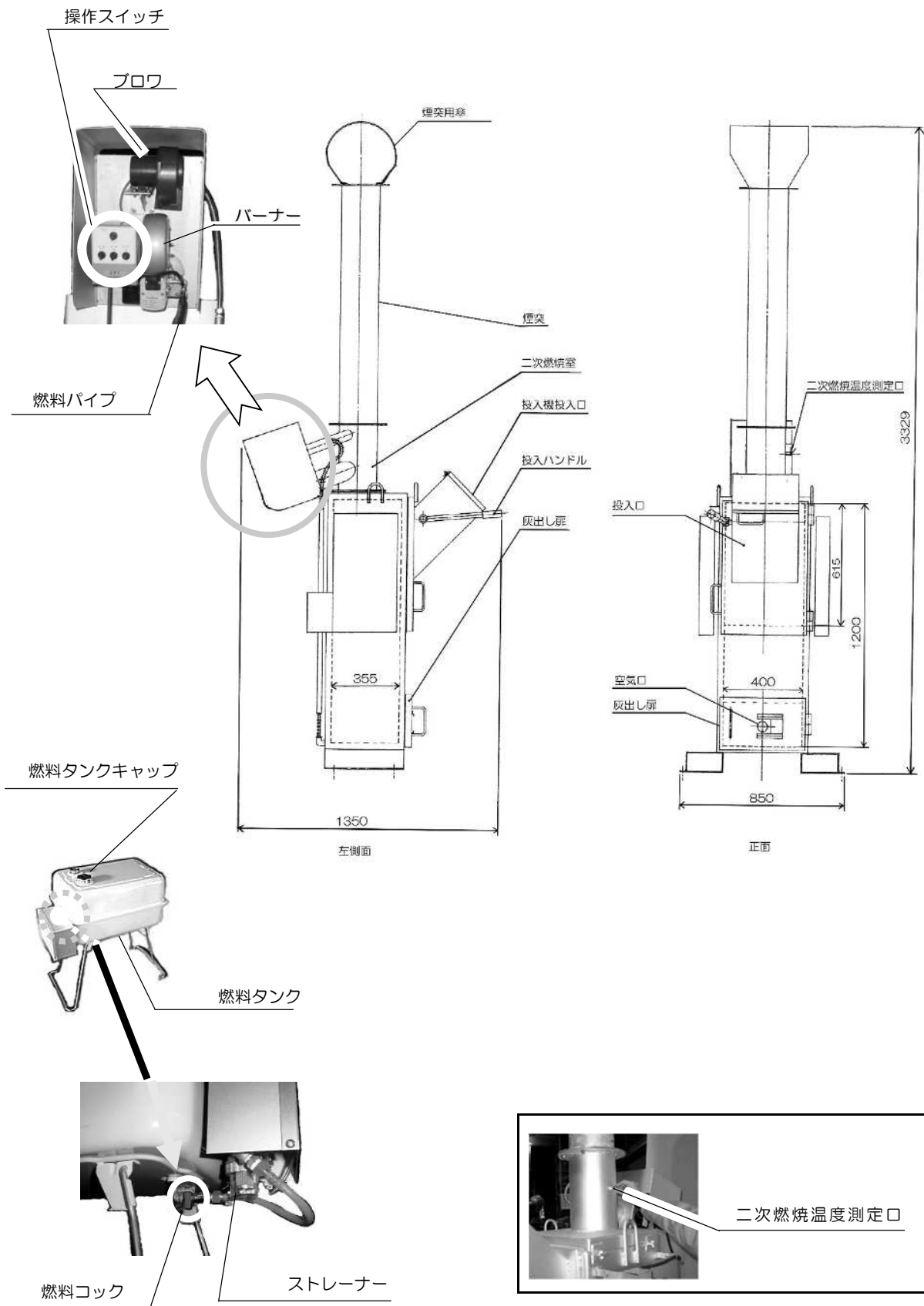
## 2. 仕 様

|                                |                                   |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| 型 式                            | C I 1 5 0 G A                     |
| 焼却能力                           | 1 5 kg/h                          |
| 全 幅                            | 850mm                             |
| 全奥行                            | 1,350mm                           |
| 全 高                            | 3,329mm（傘含む）                      |
| 投入機投入口寸法<br>（一次炉投入口寸法）<br>幅×高さ | 3 0 2 × 2 1 0 mm<br>（400 × 615mm） |
| 質 量<br>※燃料タンク除く                | 3 2 0 kg                          |
| ロストル面積                         | 0.14m <sup>2</sup>                |
| 一次炉内容積                         | 0.17m <sup>3</sup>                |
| （一次炉内寸法）                       | （0.4m×0.36m×1.2m）                 |
| 使用燃料                           | 白灯油                               |
| 燃料タンク容量                        | 4 0 L                             |
| 燃料消費量                          | 約3.8L / h                         |
| 電 源                            | AC1 0 0 V / 15A                   |
| バーナー 出力                        | 30 W                              |
| ブロワ 出力                         | 45 W                              |
| 主な焼却物の<br>1時間あたりの焼却量           | 木…13.5kg／段ボール・紙等…1.5kg            |

※1：ロストル面積とは、燃焼室内の全火床（ロストル部分を含む）面積を表しています。

### 3. 外形寸法及び各部の名称

単位 (mm)



#### 4. 設置方法と組立方法

##### 1) 準備

はじめに、ご購入いただきました焼却炉の部品がすべて揃っていることをご確認ください。



|   |           |       |   |
|---|-----------|-------|---|
| ① | 炉本体       | ----- | 1 |
| ② | 燃料タンク     | ----- | 1 |
| ③ | 煙 突 (傘付き) | ----- | 1 |
| ④ | 温度計       | ----- | 1 |
| ⑤ | 耐火煉瓦      | ----- | 2 |
| ⑥ | 着火用ライター   | ----- | 1 |

## 2) 設置方法



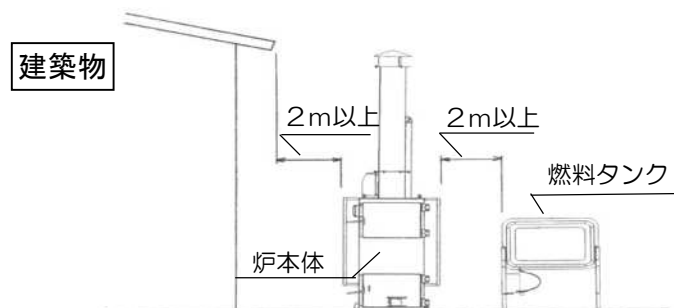
### 危険

#### 焼却炉と建築物との保有距離

消防法では焼却炉（釜戸・炉等）の設置は火災防止上、建築物等から安全な距離を保つことが定められております。

また、各地方公共団体が独自に安全な距離を定めている場合もありますので確認してください。

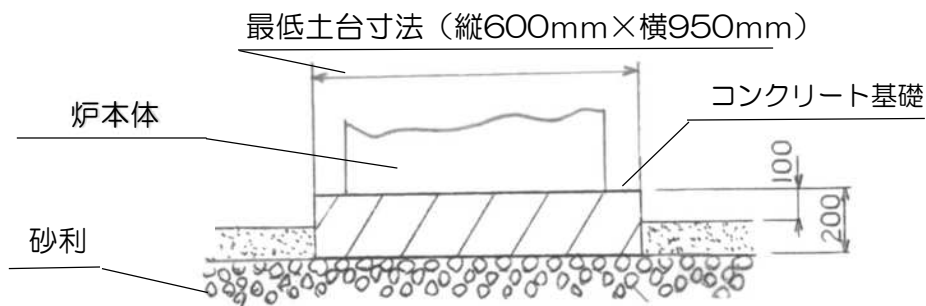
（定められている保有距離が下記以上の場合は、そちらを参考にしてください。）



炉本体と建築物等及び燃料タンクの保有距離は2m以上としてください。ただし、前方は3m以上の保有距離で設置してください。

防火壁を設ける場合もその距離を保ち、通風のため四方を塞ぐ事は絶対にしないでください。また、必ず屋外に設置してください。屋根の設置もおやめください。

設置場所が軟弱な場合は、下図を参考に基礎を作ってください。



設置は平坦な場所を選び、炉本体と燃料タンクは電気ケーブルと燃料パイプが無理なく接続できる範囲で位置を決めてください。

（必ず2m以上距離を保ってください。）



### 危険

焼却炉本体と燃料タンクは必ず2m以上距離を保ってください。

### 3) 組立方法

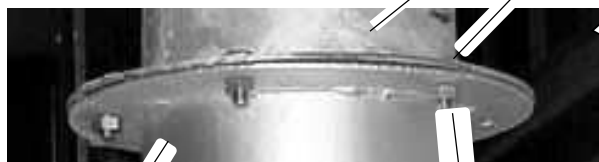
## ⚠ 注 意

#### 組立作業に際しての注意事項

- ・組立作業は必ず2人以上で行ってください。
- ・すべり止めの付いた保護手袋を使用してください。
- ・吊り上げ作業は玉掛け及び移動式クレーン運転技能講習終了者が行ってください。
- ・煙突を吊るすときはスリングベルト等で十分に固定してください。
- ・吊る前にしっかり固定されているか試してから吊り上げてください。

- (1) 炉本体の上部のフランジ部分に組付けてある取付ボルト (M8x20)、スプリングワッシャー (M8用)、ナット (M8) を外し、上部のフランジ部と付属の煙突のフランジ部の6ヶ所の穴位置を合わせてください。  
そのあと、最初に外した取付ボルト、スプリングワッシャー、ナットを使用し煙突を固定してください。

フランジ部拡大写真



二次燃焼室

スプリングワッシャー及びナット

煙突

ボルト

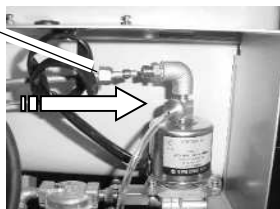
煙突

フランジ

炉本体

- (2) 燃料ポンプカバーのフタを開けバーナーについている燃料パイプをスパナ (12mm) を使い燃料ポンプに取り付けたあと、配線をしてください。

- ① 燃料パイプを挿入してください。

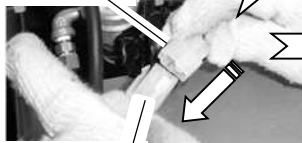


- ② 燃料パイプに付いているナットでポンプにパイプを取付けたあと、スパナ (12mm) で固定してください。



- ③ コネクターを差し込み燃料ポンプの配線をしてください。

ポンプ側コネクター

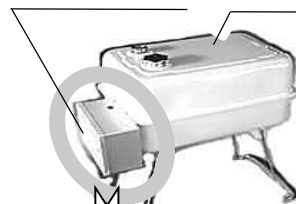


パイプ側コネクター

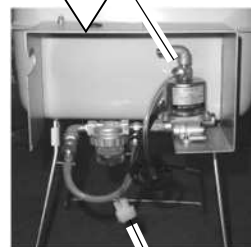
- ④ カバーの上に付いている金具でケーブルを固定してください。



ポンプカバー 燃料タンク



燃料ポンプ

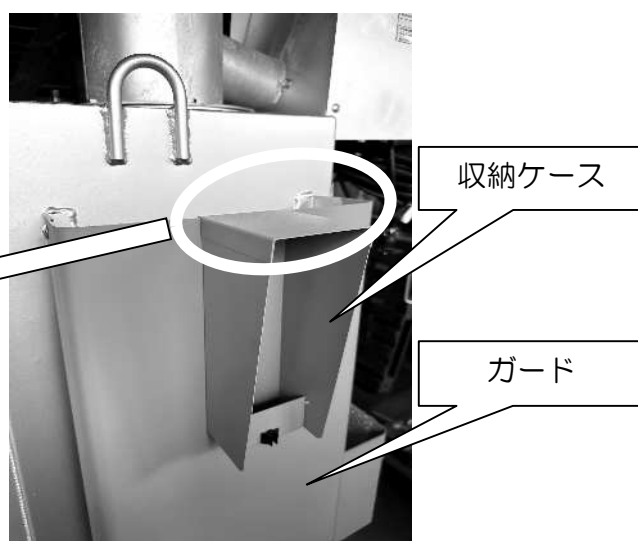
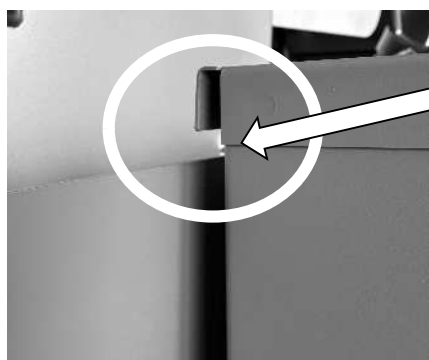


コネクター

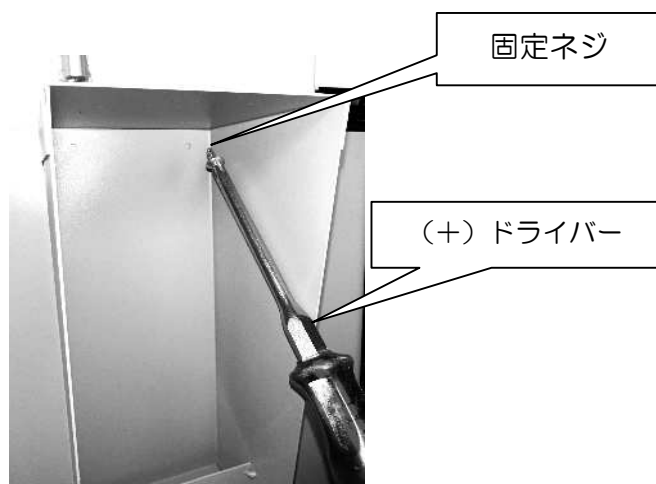
ポンプカバーを開けた状態

(3) 温度計の収納ケース及び、  
温度計の収納方法について。

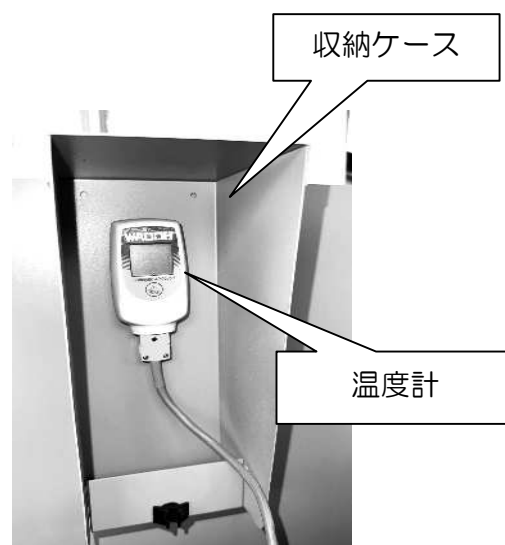
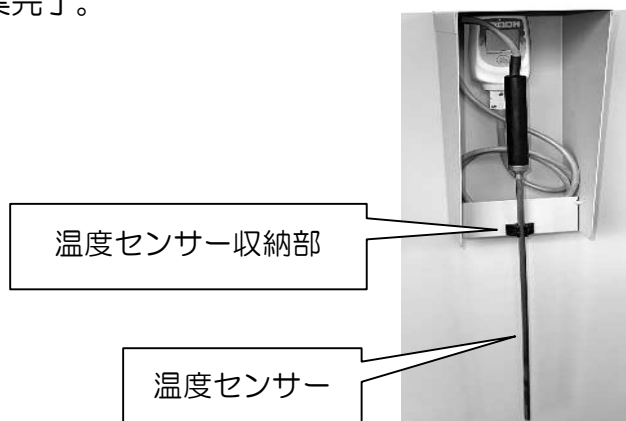
①収納ケース裏面を炉体のガード  
部分端面に引っ掛ける。



②収納ケースの固定ネジを（＋）  
ドライバーを使用し、締め付ける。



③収納ケースに温度計を入れて、  
温度センサーを収納部に付け、  
作業完了。



## 5. 運転方法

### 1) 燃料タンクに白灯油を入れる。

燃料タンクキャップを開け白灯油を入れてください。(タンク容量約40L)

- 運転中は燃料を切らさないように、時々燃料ゲージを確認してください。
- 不足している場合は、適宜補給してください。

※燃料が無い状態で運転を行うと、燃料ポンプが破損しますのでご注意ください。



### 警 告

#### ガソリン・シンナー等使用厳禁

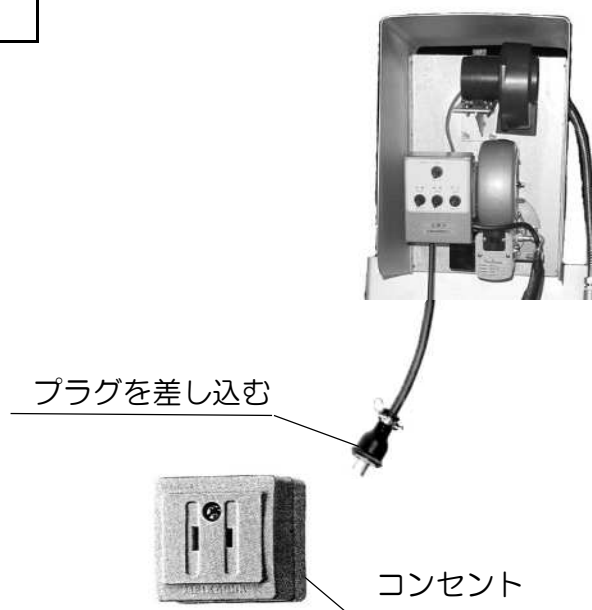
燃料にガソリン、シンナー等の揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。

引火して、爆発、火災の原因となり大変危険です。

### 2) 着火手順

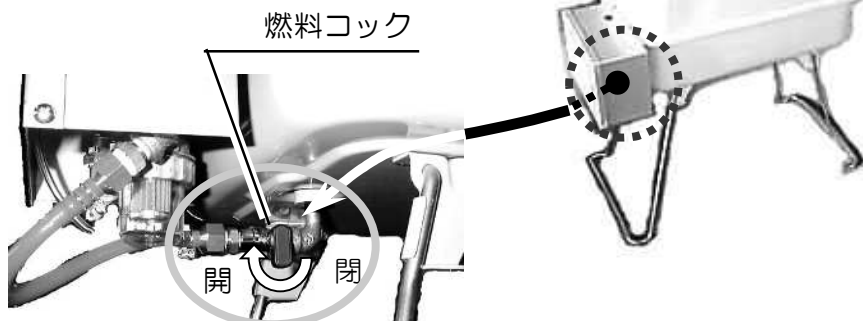
#### (1) 焼却炉の電源を入れる。

操作スイッチが『OFF』になっていることを確認したあと炉本体右側面にある燃焼スイッチの下から出ている電源プラグをコンセントに差し込みます。(AC100Vの電源)



(2) バーナーに点火し二次燃焼室を予熱する。※P5の写真を参考にしてください。

- ① 燃料タンク下部にある燃料コックを全開にして燃料をバーナー側面にある燃料ポンプへ流します。

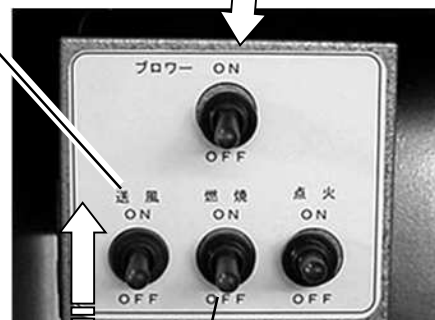
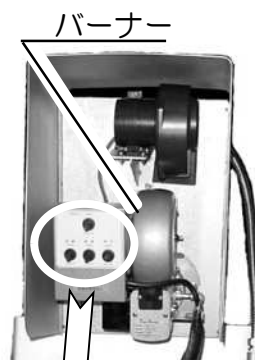


- ② 燃料パイプに空気又は水分が混入していないか確認してください。

- (a) バーナーの送風スイッチを『ON』にしたあと、燃焼スイッチを『ON』にして燃料ポンプを作動させてください。  
燃料ポンプの上にある空気抜きバルブを左に回して開き、空気抜きノズルから燃料が出るまで空気を抜いたあと、バルブを閉じて燃焼スイッチと送風スイッチを『OFF』にしてください。

※バーナーの取扱説明書を参考にしてください。

- ①送風スイッチを『ON』にする。



- ②燃焼スイッチを『ON』にする。

燃料タンク

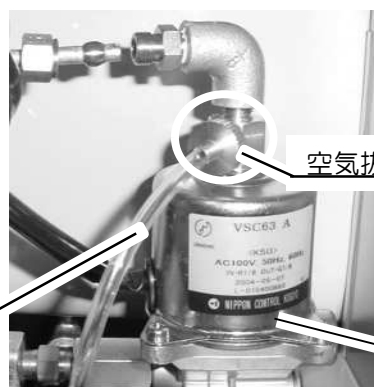


燃料ポンプ

## 警告

作業時にこぼれた燃料は、布きれなどでふき取ってください。放置すると火災の原因となります。

空気抜きノズル



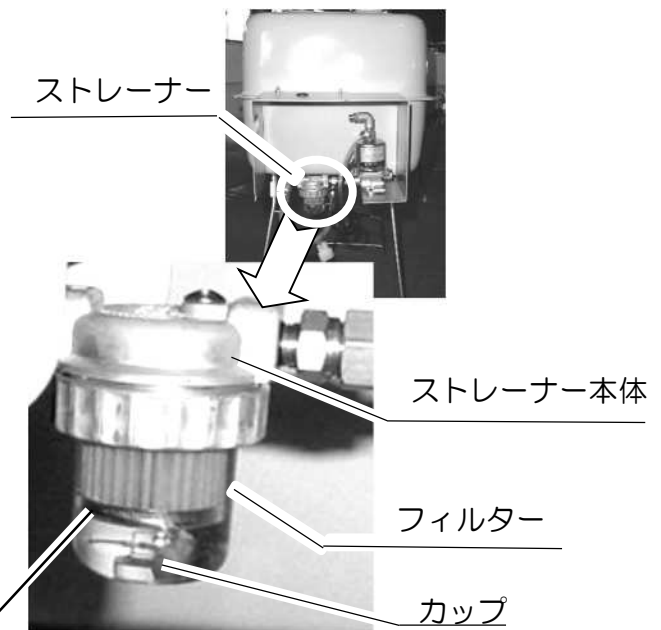
空気抜きバルブ

燃料ポンプ

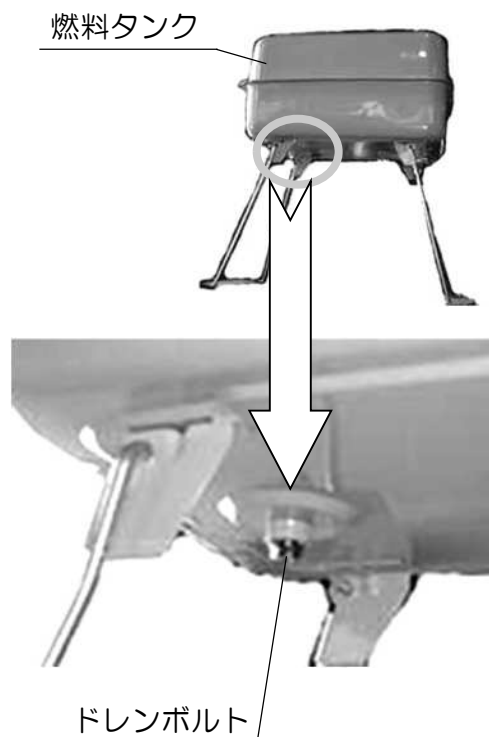
- (b) ストレーナーの中に水分が混入していたらカップを外しストレーナー内の水分を除去し、フィルターを掃除してください。  
(バーナー取扱説明書：P 7を参照してください)

カップを左に回して外してください。

※組付けするとき、カップとストレーナー本体との間に、漏れ止め部品のOリングがありますので、キズや破損の無いよう分解、組み付けてください。



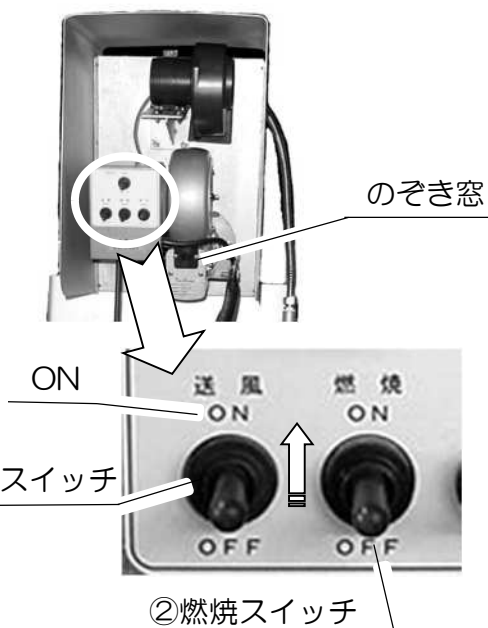
- (c) 燃料タンク内の水分や異物等を排出する。  
タンク下部にあるドレンボルトを外し、タンク内の水分や異物等を出してください。



## 注 意

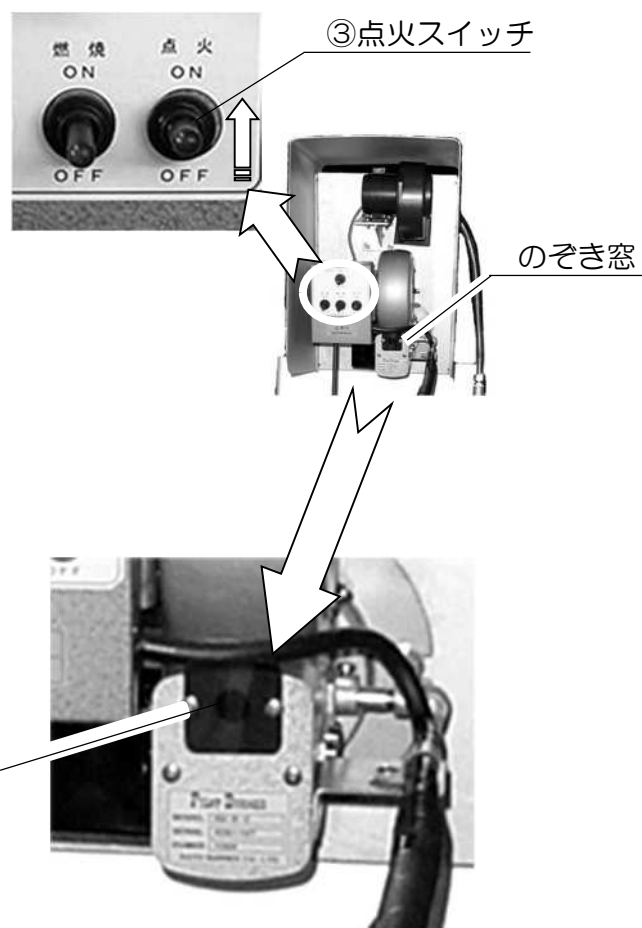
燃料タンクに水分が混入すると燃料ポンプの性能低下や、バーナーの燃焼不良の原因となります。また、燃料タンク内は、空にならないよう注意してください。

- ③ バーナーの送風・燃焼スイッチを順に『ON』にしたあと、点火スイッチを『ON』にしてバーナーに着火します。  
この時、バーナー部ののぞき窓から炎が出ていることを確認してください。  
炎を確認したら、点火スイッチから手を離してください。  
この状態で5～6分間運転し二次燃焼室を暖めます。



### ⚠ 注意

はじめてご使用になる際、燃焼スイッチを操作したあと燃料タンクからバーナーまで燃料が届くのに約2～3分間かかります。  
その間は、着火しない場合がありますのでご注意ください。  
また、バーナーが着火されている事を必ず確認してください。



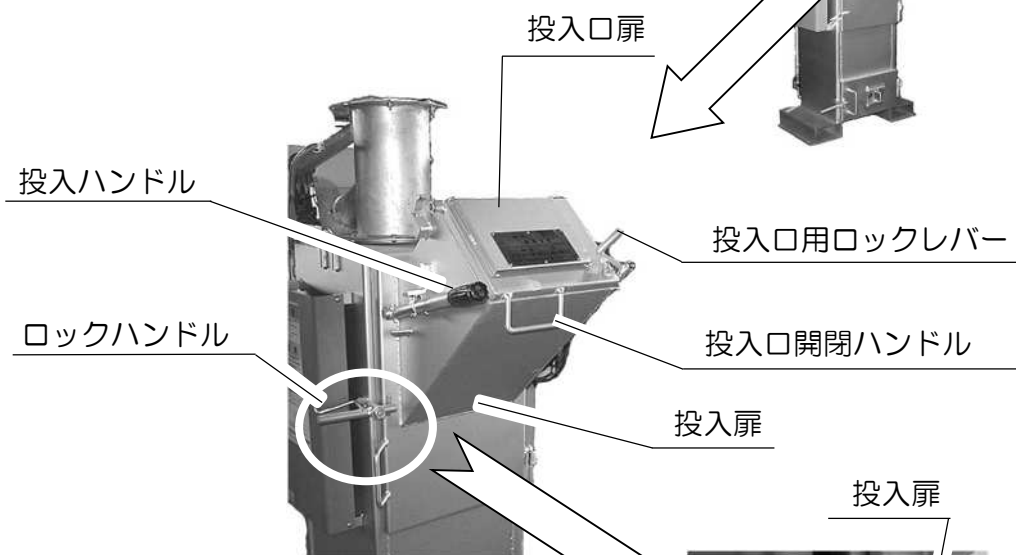
### ⚠ 注意

バーナーの送風スイッチがOFFの状態では焼却運転は、絶対に行わないでください。  
バーナー破損の原因となります。

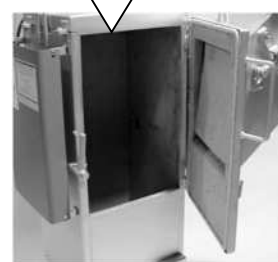
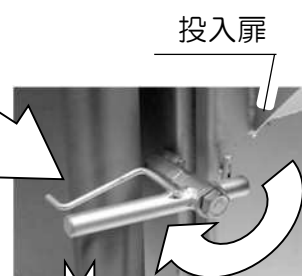
バーナーが着火  
されていること  
を確認する

### (3) 焼却の開始

- ① 焼却を開始する場合は、バーナーに着火したあと、ロックハンドルを上げて解除してから投入扉を手前に引いて開いてください。投入扉を開いたあと、炉内に焼却物を入れて付属の着火用ライターで着火してください。焼却物に着火したら、投入扉を逆の手順で閉めてください。  
プラスチック類は、焼却しないでください。



- (a) ロックハンドルを上に戻し、投入扉のロックを解除して投入扉を開いてください。



### ⚠ 注 意

燃焼中この作業は行わないでください。

### ⚠ 危 険

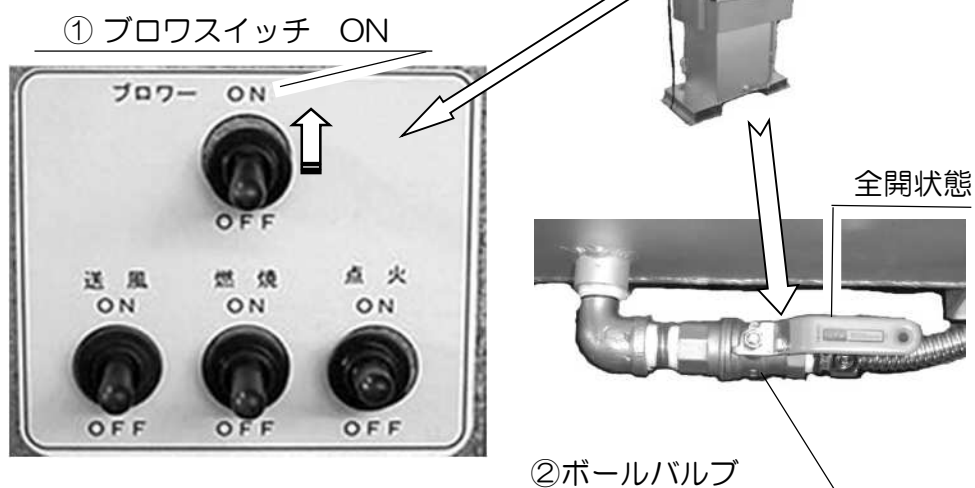
危険物の焼却炉へ投入禁止

- ・引火性の高い物・・・ガソリン、シンナー、ベンゼン、エチルアルコール、可燃性粉じんなど
- ・爆発が起こる可能性があるものなど・・・スプレー缶、火薬、密閉された缶など
- ・毒物・・・水銀、ヒ素、黄リンなど
- ・劇物・・・クレゾール、トルエン、硝酸など
- ・その他、上記以外にも危険性がある物

- (b) 炉本体の投入口より焼却物を投入したあと、付属の着火用ライターを使い焼却物に着火し、煙突より煙が出たら投入扉を閉めてください。



- (c) 操作スイッチのブロワを『ON』にしたあと、焼却炉本体背面にあるボールバルブを全開にし、炉内に空気を送ってください。

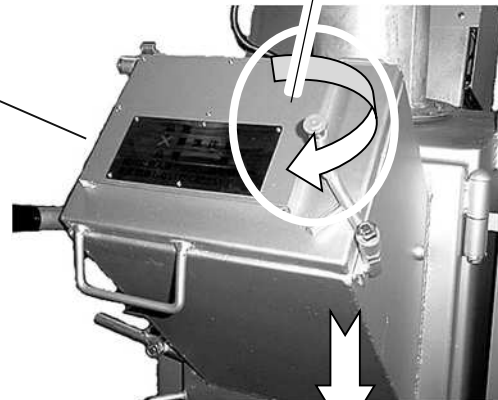


(5) 投入扉の投入口より、焼却物を投入してください。

- ① 投入口用ロックレバーを回し解除してください。

投入口扉

投入口用ロックレバー



- ② 投入口用開閉ハンドルを持ち上げ投入口扉を開けてください。

開閉ハンドル



### ⚠ 注 意

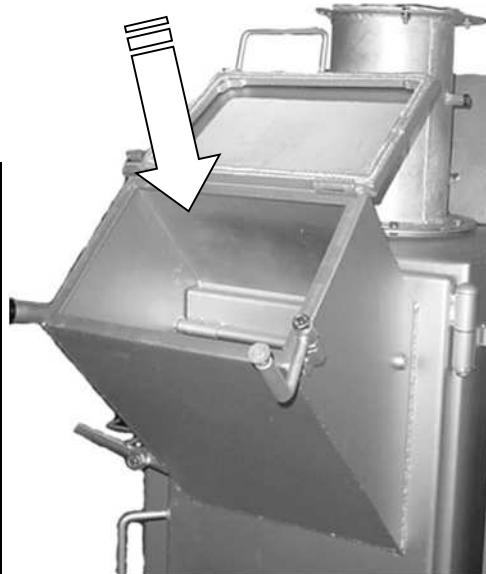
使い始め3日間位は1時間の焼却物投入量を焼却能力の半分に減らし、ならし運転を行ってください。  
使い始めより、急激に炉内温度を上昇させると断熱材（キャスト）の脱水時の蒸気化が急激に起こり炉壁内に大きな蒸気圧が発生しそのエネルギーによって爆裂のような現象が起こり、炉壁を破損することがあります。

- ③ 焼却物を投入口より投入したあと投入口扉を閉じ投入口扉用ロックレバーをロックしてください。

### ⚠ 警 告

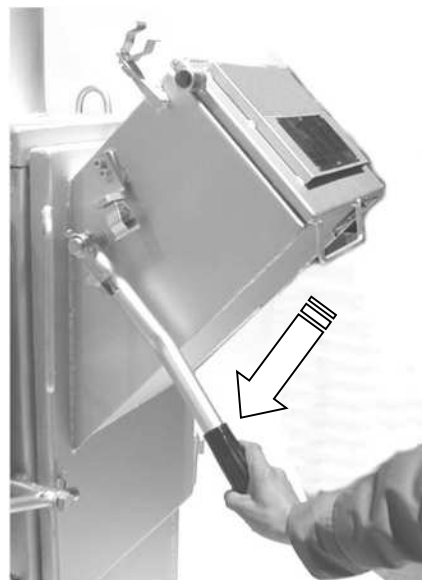
- ・塩化ビニール製品は絶対に焼却しないでください。塩化水素の有毒ガスが発生し大変危険です。
- ・スプレー缶等は絶対に焼却炉に入れないでください。爆発、火災の原因となり大変危険です。
- ・作業時、扉に指等を挟まないよう注意してください。
- ・焼却中は投入扉本体や灰出し扉等を開かないでください。
- ・各扉を閉じる時は、パッキンに投入物を挟まないよう注意してください。

焼却物を投入する



扉を閉じたら投入口扉用ロックレバーをロックする。

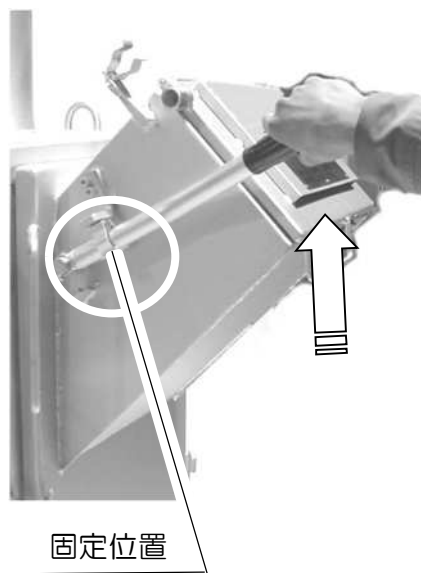
- ④ 投入口扉用ロックレバーを確認後、投入ハンドルを下げる事で焼却物が炉内に投入されます。



- ⑤ 焼却物を投入したら、投入ハンドルを固定位置まで上げてください。

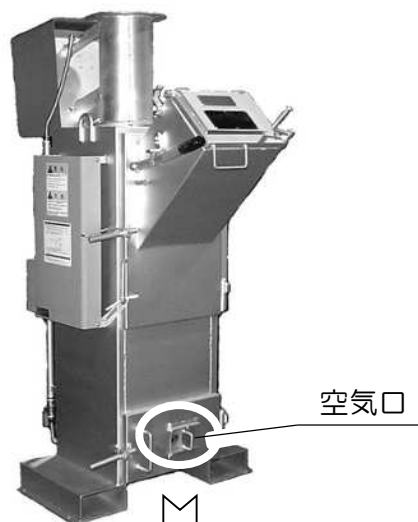
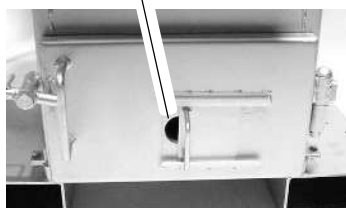
 警 告

- 焼却中は、焼却炉本体の投入口は開けないでください。  
急激に炉内に酸素が送り込まれると、炎が吹き出し、火傷をするおそれがあります。
- 炉本体、煙突に手を触れないでください。  
高温のため、火傷をするおそれがあります。
- 空気口を必要以上に開けないでください。  
不完全燃焼の有毒ガスがバックファイヤーを起こし火傷をするおそれがあります。

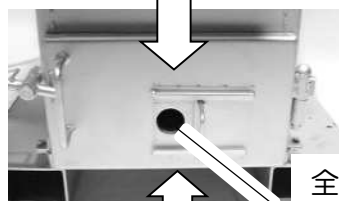


- ⑥ 煙が見えない程度に、空気口の  
開き具合を調整してください。  
空気口は開けば開くほど、燃焼  
は早くなりますが煙突からの煙  
量が増えます。  
煙量が多いときは、空気口を閉  
じ少ないときは空気口を開いて  
調整してください。

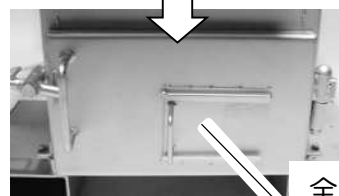
通常の状態



空気口



全開状態



全閉状態

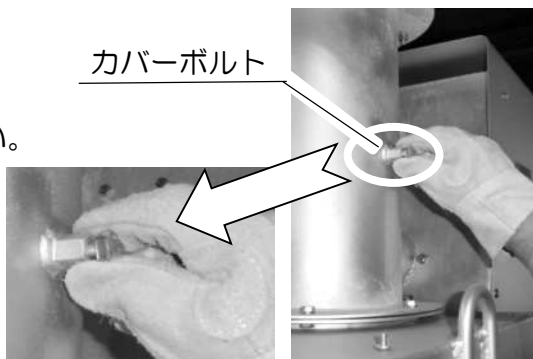
### 3) 燃焼温度の確認

- (1) 温度計測定口のカバー  
ボルトを外してください。

#### ⚠ 注 意

カバーボルトを外すときは手  
袋を着用するかプライヤーな  
どの工具を使用し、火傷など  
けがのないようにしてくださ  
い

カバーボルト



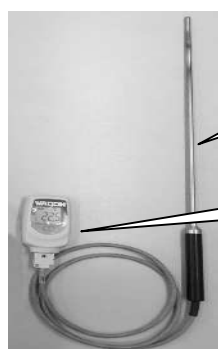
- (2) 付属している温度計の電源ス  
イッチ「ON/HOLD」ボタン  
を押す。  
電源を切るには「ON/  
HOLD」ボタンを押すと  
約15秒後に自動的に電源  
が切れます。

※ 「ON/HOLD」ボタンは、  
1秒以上押してください。  
正しく動作しない場合が  
あります。

電源スイッチ

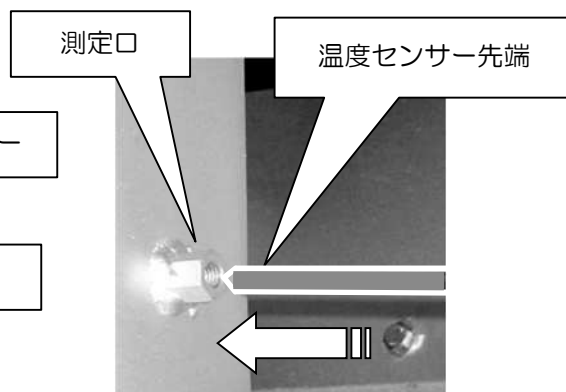


- (3) 付属の温度センサー先端を測定口に挿入してください。



温度センサー

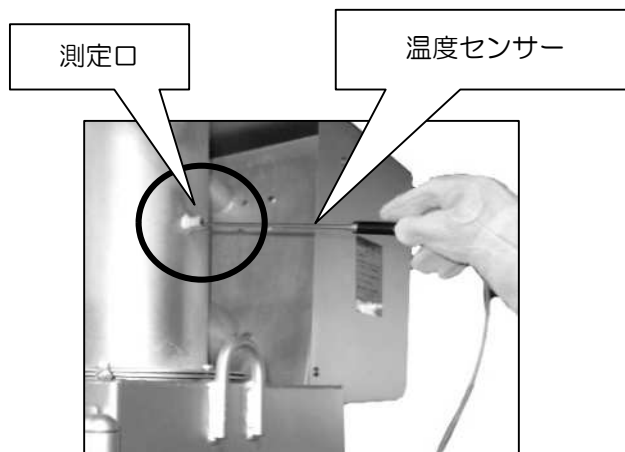
温度計



測定口

温度センサー先端

- (4) 二次燃焼室内の温度がデジタル数値で温度計に表示されます。  
二次燃焼室内の温度が800℃以上あることを確認してください。  
焼却物を投入しても800℃以下のときは、作業を中止しバーナーを点検してください。



測定口

温度センサー

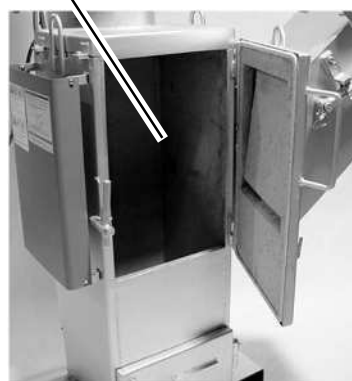


温度表示

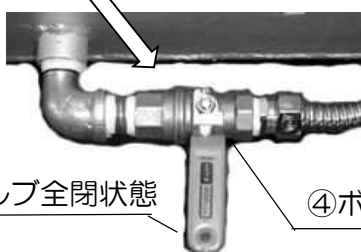
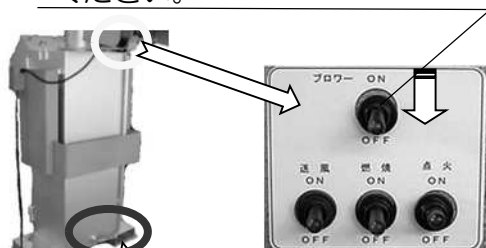
#### 4) 消火手順

- (1) 作業が終了し約2時間以上すぎたら炉内が鎮火していることを確認してください。  
その後に、ブロワのスイッチを『OFF』にし、空気口とボールバルブを全閉にしてください。

- ① 炉内焼却物の鎮火を確認する



- ③ブロワスイッチを『OFF』にしてください。



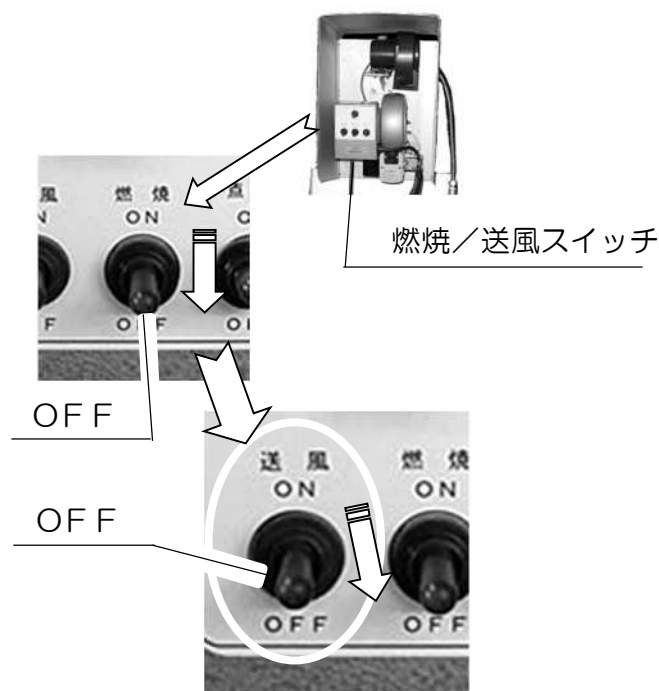
ボールバルブ全閉状態

- ④ボールバルブを全閉にしてください。

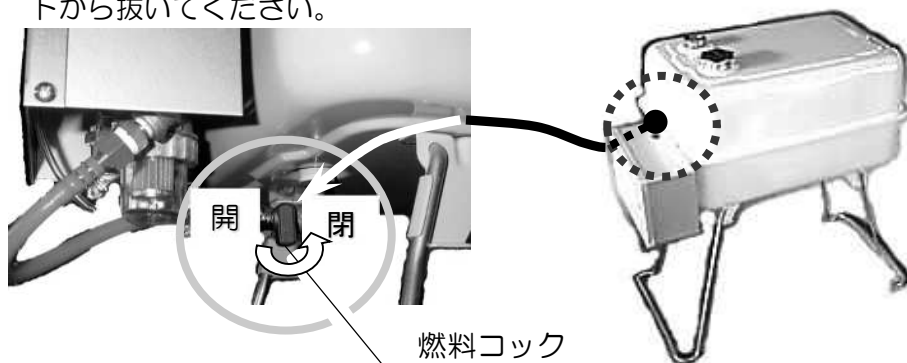
- ② 空気口を全閉にする



- (2) バーナーの燃焼スイッチを『OFF』にしてください。  
このとき煙突から煙の出ていることを確認してください。  
バーナーの冷却運転を行うため、送風スイッチは燃焼スイッチを『OFF』にしたあと60分以上たってから『OFF』にしてください。  
(煙が出ている場合は再度送風スイッチを『ON』にしたあと燃焼スイッチを『ON』にし、煙が出なくなるまで二次燃焼を行います。)



- (3) 燃料コックを全閉にしたあと、電源プラグをコンセントから抜いてください。



## 6. 保守・点検

- 1) 炉内に焼却灰が溜まらないよう常に掃除してください。  
※炉内に溜まった焼却灰は、燃焼用空気の通過の妨げとなり、十分な能力を出すことが困難となります。
- 2) 燃料タンク内の燃料は常に満タンにしてください。  
※燃料が少ない状態で保管すると燃料タンク内に水分が溜まりやすく燃料ポンプが故障をする原因となります。

| <div style="text-align: center;">  <b>警 告</b> </div> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>炉内及びスパークバー、バーナーノズル等を点検、清掃、調整する時は、必ず電源を切ってから行ってください。<br/>感電するおそれがあります。<br/>安全靴、保護メガネ、手袋、マスクを使用してください。</p>                             |
| <div style="text-align: center;">  <b>注 意</b> </div> |
| <p>取り出した灰は産業廃棄物として処理してください。</p>                                                                                                         |

## 7.故障かなと思ったら 現象とその対応

|   | 現 象                | 原 因                        | 対 応                                         |
|---|--------------------|----------------------------|---------------------------------------------|
| 1 | 煙突から黒煙が出る。         | 1) バーナーが停止している。            |                                             |
|   |                    | ① 送風、燃焼スイッチが入っていない。        | スイッチを『ON』にする。                               |
|   |                    | ② 燃料コックがしまっている。            | 燃料コックを開ける。                                  |
|   |                    | ③ 燃料が入っていない。               | 燃料（白灯油）を補給する。                               |
|   |                    | ④ 停電等により一時的に通電が停止した。       | 燃焼スイッチを一度『OFF』にし再度『ON』にする。                  |
|   |                    | 2) 投入扉が開いている。              | 投入扉を閉める。                                    |
|   |                    | 3) 灰出し扉が開いている。             | 灰出し扉を閉める。                                   |
|   |                    | 4) 発砲スチロール、プラスチック等を燃やしている。 | 空気口、ボールバルブを閉め作業をやめる。                        |
|   |                    | 5) 灰出し口の空気口が全開になっている。      | 空気口の調整を行う。<br>（閉める方向に調整する。）                 |
| 2 | 煙突から炎が出る。          | 1) 投入扉が開いている。              | 投入扉を閉める。                                    |
|   |                    | 2) 灰出し扉が開いている。             | 灰出し扉を閉める。                                   |
|   |                    | 3) 灰出し口の空気口が全開になっている。      | 空気口の調整を行う。<br>（閉める方向に調整する。）                 |
|   |                    | 4) プラスチック等を多量に投入した。        | プラスチック等を投入しない。                              |
| 3 | 一次燃焼室の焼却物が立ち消えしている | 1) ボールバルブ、空気口が全閉になっている。    | バルブ、通気口を開け、再着火を行う。<br>（着火時バックファイヤーに注意すること。） |
| 4 | バーナーのファンが回らない。     | 1) 電源が入っていない。              | 電源をつなぐ。                                     |
|   |                    | 2) コンデンサーが破損している。          | コンデンサーを交換する。                                |
|   |                    | 3) モーターが破損している。            | モーターを交換する。                                  |
| 5 | バーナーが点火しない。        | 1) 電源が入っていない。              | 電源をつなぐ。                                     |
|   |                    | 2) 送風スイッチが入っていない。          | 送風スイッチを『ON』にする。                             |
|   |                    | 3) 燃料コックがしまっている。           | 燃料コックを開ける。                                  |
|   |                    | 4) 燃料が入っていない。              | 燃料（白灯油）を補給する。                               |
|   |                    | 5) イグナイターが破損している。          | イグナイターを交換する。                                |
| 6 | バーナーの炎が消えた。        | 1) 燃料が入っていない。              | 燃料（白灯油）を補給する。                               |
|   |                    | 2) 停電等により一時的に通電が停止した。      | 燃焼スイッチを再度『ON』にする。                           |
| 7 | 投入ハンドルが操作出来ない。     | 1) 投入口扉を閉めたとき投入物が残っている。    | 1 回の投入物の量を減らす。                              |
|   |                    | 2) ハンドルが完全に引き戻されない。        | スライド部分に投入物がかみ込んでいるときは投入物を取り除く。              |



部品の購入、故障、その他取り扱い上ご不明な点があった場合には、ご遠慮なく  
お買い上げの販売店にお問い合わせください。

※改良のためお断りなく仕様、外観などを変更することがあります。

## 商品のお問い合わせ窓口

### ■お問い合わせ

<https://www.kyocera-industrialtools.co.jp/info/>



### ■電話によるお問い合わせ



0570-666-787

受付時間：

月曜日から金曜日（国民の祝日、当社指定休日を除く）  
9時から12時まで、13時から17時まで

※通話料金はお客様負担となります。

回収のために下記のリョービ電動サンダーを探しています。

| 対象商品   | 外観色調    | 生産時期        | 製造番号          |
|--------|---------|-------------|---------------|
| MS-350 | ダークグリーン | 1999年～2001年 | 44001～52000   |
|        |         | 2001年～2002年 | 90001～103000  |
|        |         | 2006年～2007年 | 178001～185000 |
| S-801  | ダークブルー  | 2001年       | 12001～15730   |
| S-801S | ダークブルー  | 2000年～2001年 | 6001～7828     |
| S-801M | グリーン    | 2004年～2005年 | 7001～9000     |

詳細は、こちらをご参照ください。

<https://www.kyocera-industrialtools.co.jp/notices/2012/07/000371.html>



## 京セラインダストリアルツールズ株式会社

本社

広島県福山市松浜町 2-2-54 〒720-0802

<https://www.kyocera-industrialtools.co.jp>

